

審査結果概要書

平成 25 年 2 月 12 日

審査機関名 ビューローベリタスジャパン株式会社

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	ハクサン染工株式会社本社工場におけるボイラー更新事業
排出削減事業者名	ハクサン染工株式会社
排出削減共同実施事業者名	一般社団法人低炭素投資促進機構 (その他関連事業者名：三井住友ファイナンス&リース株式会社)
事業実施場所	ハクサン染工株式会社 本社工場 (住所：石川県金沢市専光寺レ 3 番地の 11)
事業の概要	ハクサン株式会社本社工場において、A 重油焚きボイラー 2 基を LNG 焚きの高効率ボイラー 5 基に更新する。これによりエネルギー効率を改善し、さらに燃料を A 重油からより低炭素の LNG へ切り替えることにより CO2 排出量を削減する。
排出削減量の計画	2012 年度：408tCO2/年
国内クレジット認証期間	開始予定日 2013 年 1 月 28 日 終了予定日 2013 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 001 「ボイラーの更新」

2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している。

3. 実施した審査手続きの概要

審査手続きにより、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続き
日本国内で実施されること	事業計画が日本国内で実施されていることを、事業サイトを訪問して確認した。 排出削減事業実施場所：ハクサン染工株式会社 本社工場 (住所：石川県金沢市専光寺レ 3 番地の 11) 事業実施サイトの視察日付： 2012 年 10 月 26 日、2013 年 1 月 28 日

追加性を有すること	<p>1) 法的義務がないこと 本事業は、法的義務等の遵守のために計画されたものではなく、CO2 排出量の削減を目的として実施されたことを、関係者への質問等により確認した。</p> <p>2) 設備が継続利用可能であること 更新前の設備が継続的に使用可能であることを質問、関連資料（性能検査結果報告書）の閲覧を通じて確認した。</p> <p>3) 投資回収年数 排出削減事業の投資回収年数については、入手した根拠資料、質問及び検算により 4.6 年であることを確認した。投資回収年数計算の根拠データにつき、関連証憑と突合することにより正確性を確認している。なお、補助金の使用はなく、純投資額をもとに算出している。</p> <p>4) 追加性判断における定性要因 継続的にエネルギー使用量および CO2 排出量を減らしたいという事業者の考えに、国内クレジット活用による高効率ボイラー更新というクリーンな事業がマッチしたことから、国内クレジット制度の存在がなければ、本事業の実施は難しかったと判断できる。</p>
自主行動計画に参加していない者により行われること	排出削減事業者が自主行動計画に参加していないことについて、排出削減事業者や関係者への質問により、自主行動計画に参加していない事業者であることを確認した。
排出削減方法論に基づいて実施されること	<p>1) 本排出削減事業は、承認排出削減方法論 001（ボイラーの更新）の適用条件を満たしていることを確認した。 適用条件 1 については、既存設備、更新設備の仕様書を通じて、事業実施前より高効率なボイラーを導入することを確認した。</p> <p>適用条件 2 については、視察当日に既存設備が稼働していたこと、および関連資料（性能検査結果報告書）を通じて、既存設備が継続して使用可能な状態であることを確認した。</p> <p>適用条件 3 については、事業実施後のボイラーで生産した蒸気が自家消費することを視察、事業者への質問、関連資料を通じて確認した。</p>

	<p>2) バウンダリーの設定、ベースラインの設定、リーケージの特定、排出削減量、モニタリングの方法が適切であることについて、それぞれ質問と関連証憑により確認している。</p> <p>リーケージは気化用に用いた LNG 消費量が考えられるが、排出削減量の 5%以下であるため、リーケージ排出量の算定は行われていない。事業者の評価結果について、ガス関連資料等を通じて確認した。</p> <p>3) ベースライン排出量の算定に係る既存設備の最大利用期間について、いずれの設備も法定耐用年数の 2 倍を超えていないことを確認している。</p>
--	--

4. 特記事項

なし

以上